
Cafeサターン

ありすとなぎさ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

C a f e サターン

【Nコード】

N 6 5 1 7 H

【作者名】

ありすとなぎさ

【あらすじ】

C a f e サターンの裏の商売に関わっていたのは不思議な力を持った少年たちだった。そんな彼らの生活や学校生活のお話

S t a r t (前書き)

めちゃくちゃ不定期に更新します。

S t a r t

「護衛、暗殺者、スパイの手配します。」

ある闇社会の溜まり場での広告。誰も目を向けない、ひっそりとした広告がある一人の青年が見つけた。

「んっ？」

青年はまじまじと広告見た。そして何処かに電話した。

夢の世界へようこそ。

C a f e サ タ ー ン

ここは、一見喫茶店だが、護衛、暗殺者、スパイを手配するが、契約している者のほとんどが不思議な力を持った少年少女である。しかし彼ら一人で護衛からスパイまで何でもやってのける。そんな彼らの不思議な生活と学校生活をどうぞ。

仕事が始まる

カランカラン

Cafeサターンにお客が来た。広告を見て電話をかけた青年である。その青年は、適当に座ると注文を聞きに来た少女に言った。

「チーズケーキパフェを」

これは、裏の仕事を依頼するときの暗号である。これを聞いた少女は「奥へ行ってください。」

と言って別のテーブルへ行った。青年は荷物を持って奥へ行った。奥には十歳前後の少女が待っていた。

「いらつしやいませ。人材派遣の裏Cafeサターンへ。ようこそ、貴方を歓迎します。」

そう言つて応接室に案内した後、どこかに消えた。青年がちよつとびっくりしていると、ドアから三十代前半の男性が入ってきた。

「いやあ。お待たせいたしました。オーナーの雅山と申します。さて、貴方は何をお求めですか？」

青年はこう名乗った。

「はじめまして。私はハシャイニンブルーグループの総裁秘書、沼田と言います。実は総裁の護衛と総裁を狙う要人の始末をお願いしたい。」

雅山は頷きながら侮れない目をした。

「で、その総裁の孫として護衛をつけたいと。」

沼田は真剣な表情で話している。

「はい、そうです。会社にいる時は警備員をつけられるのですが、さすがにプライベートは無理なので…」

「わかりました。引き受けます。では、始末する要人と護衛対象者の情報をお願いします。」

沼田は踊りだしそうだった。

「ありがとうございます！これが情報です！」

「はい。わかりました。では3日後に護衛を始めます。」

「よろしく願います。」

沼田は頭を下げながら帰っていった。

一人になると雅山は二人の少女を呼んだ。そして：

「沼田を徹底的に調べてもらえるか？」

「了解（ ）」「」

仕事が始まる（後書き）

あれ？主人公が出てこない。あれ？沼田さんキャラ変わってない？
おかしいなあ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6517h/>

Cafeサターン

2010年10月12日02時01分発行